

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	環境材料化学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年前期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース)/選択科目(食品生物資源コース)/選択必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	西田 哲明						
授業の到達目標(シラバスから)	1. 放射線や原子核の基礎と応用について解説できる。 2. メスバウアー効果の原理と応用について解説できる。 3. 環境問題の解決にメスバウアー分光法が有効であることを解説できる。 4. 廃棄物のリサイクル、新素材の開発とそれらの応用について解説できる。						
日程と内容	4/9 導入講義：授業の概要と進め方、成績評価について説明する。放射線について 4/16 放射線の種類と性質 4/23 自然放射線と放射線、原子核の有効利用 4/30 放射線の単位 5/7 メスバウアー効果とは 5/14 異性体シフトと化学結合 5/21 四極分裂の基礎 6/4 化学結合、電気陰性度、電子構造とメスバウアーパラメータその1 6/11 化学結合、電気陰性度、電子構造とメスバウアーパラメータその2 (中間試験含む) 6/18 無機固体材料その1、非晶質固体の構造 6/25 無機固体材料その2、分子磁性体の構造 7/2 無機固体材料その2、錯体の構造 7/3 メスバウアー分光法の環境化学への応用 7/10 メスバウアー分光法と廃棄物のリサイクルその1 7/16 メスバウアー分光法と廃棄物のリサイクルその2 7/23 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%			
	臨時試験	30%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	1. 放射線や原子核の基礎と応用について解説できるようになった。 2. メスバウアー効果の原理と応用について解説できるようになった。 3. 環境問題の解決にメスバウアー分光法が有効であることを解説できるようになった。 4. 廃棄物のリサイクル、新素材の開発とそれらの応用について解説できるようになった。						
反省点	16名の授業であったが、全員真剣に授業に取り組んでくれた。						
来年度の計画	全員が、総合評価10点を付けてくれることを目標にしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価で8.5(16名回答)となり、そのうち8名(50%)が10点または9点を付けてくれた。8点以上の回答者は12名(75%)となり、個別の設定項目においても、多くの項目の評価は4.3~4.5(5段階評価)であった。						
履修登録者数	18名	定期試験受験者数	16名	合格者数	15名	合格率	94%